

社会的要因からの説明の諸相

網谷祐一 (Yuichi Amitani)

会津大学

科学的知識の社会学(SSK)とフェミニスト科学批評(FCS)は、どちらも科学外の要因や関心が科学に与える影響について考えるメタ科学的研究プロジェクトである。具体的には、社会経済的階級や政治的信念 (SSK) やジェンダーバイアス (FCS) が、科学者の研究やその産物に影響を与えることを示すことを目指している。

例えば、科学的知識の社会学の主導者であるスティーブン・シェイピンとサイモン・シャッファー(Shapin and Schaffer 1985)の主張では、トマス・ホッブスとの論争の中で、ロバート・ボイルはある証言の科学的信憑性について、その人の社会的地位を理由にして疑問を呈した。著名なフェミニスト科学者であるサラ・ハーディ(Hrdy 1986)は、ヒトの男性女性が交際で果たす役割についてのステレオタイプの見方(男性は自己主張が強く見境がなく、対して女性はえり好みする)が霊長類学に与える影響を分析した。彼女の研究によると、1970年代までは霊長類学者はステレオタイプの見方に影響されて、雌の霊長類は交配において「奥手」だと考えてきた。しかし女性研究者が霊長類学に参入するにつれて上の見方に反対する観察報告が注目を集めてきたという。

従ってこれらのプロジェクトは重要な要素を共有している。しかし、科学史家および科学哲学者によるこれらのプロジェクトの評価は非常に異なっている。SSKに属する研究の多くが厳しい批判を受けてきたのに対して、FCSに属する研究は一般的に科学に対して批判的だが正当な視点をもたらしていると考えられている。例えばローズ＝マリー・サージェント(Sargent 1997)はボイルについてのシェイピンとシャッファーの描写は誤っていると批判する。サージェントによると、ボイルは実際には学識のない人々の証言を真剣に受け取っており、そうしない時でも証言者の社会的地位とは無関係な理由を与えているというのである。一方、ハーディの研究は、フェミニスト科学研究のさらなる発展の礎石となっていると考えられている(Longino 1996 など)。

このような違いは何によってもたらされるのだろうか。本発表ではこうした違いの起源を両プロジェクトの各研究が持ついくつかの特徴に見いだすことを目標とする。この目標のために、我々は両プロジェクトのいくつかの事例研究を比較吟味する。

例えばいくつかのSSKの研究は社会文化的関心が科学的論争の帰趨や科学的仮説の内容に影響を与えたとするが、個々の事例において本当にそうした影響関係があったのかについて批判が寄せられている。つまり関心と影響をつなぐ因果的連鎖が弱いのではないかという批判である。一方、FCS研究の背後にある因果メカニズム、すなわち科学者に対するジェンダー・バイアスの影響は、心理学や他の種類の証拠によってほぼ確立されている(例えば、Kite and Whitley 2016を参照)。

さらに、2つの伝統の研究者は、研究の異なる時間的段階を研究する傾向がある。

例えば、FCS の伝統に基づく研究では、被説明項の選択や仮説の形成といった研究の初期段階においてジェンダー・バイアスが研究者に与える影響に注目する傾向がある。例えば、ロートンら (Lawton et al. 1997) は、3 つの鳥類学研究を取り上げ、ジェンダー・バイアスが研究の被説明項の選択に影響を与えたことを発見している。これに対して、SSK の研究は、科学的論争の解決など、科学的探究の後期に焦点を当てる傾向がある。例えばシェイピン (Shapin 1975) は、エジンバラの骨相学論争を取り上げ、社会階級 (商人階級と支配階級) が骨相学の支持者と批判者を分かつ重要な要因であったと論じている。発表ではこうした点が両者への評価につながっている可能性について議論する。

文献

- Hrdy, Sarah Blaffer. Empathy, polyandry, and the myth of the coy female. In: Kourany JA, editors. *Feminist Approaches to Science*. Upper Saddle River, NJ: Prentice Hall.; 1986. p. 119-146
- Kite, Mary E, Whitley, Bernard E: *Psychology of Prejudice and Discrimination*, Third Edition. Routledge, 2016
- Lawton, MF, Garstka, WR, Hanks, JC. The Mask of Theory and the Face of Nature. In: Gowaty, PA, editors. *Feminism and Evolutionary Biology: Boundaries, Intersections, and Frontiers*. Springer, Dordrecht; 1997. p. 63-85
- Longino, Helen: *Science as Social Knowledge: Values and Objectivity in Scientific Inquiry*. Princeton NJ: Princeton UP, 1996
- Sargent, Rose-Mary: The social construction of scientific evidence. *Journal of Constructivist Psychology* 10:75-96, 1997.
- Shapin, Steven: Phrenological knowledge and the social structure of early nineteenth-century Edinburgh. *Annals of science* 32:219-243, 1975.
- Shapin, Steven, Schaffer, Simon: *Leviathan and the Air-Pump*. Princeton University Press, 1985